長洲町立長洲小学校　校長便り　No.１３２

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和５年１１月９日(木)

１１月だ。来週は外部のお客様をお迎えするにあたり、忙しい日々だ。６年生が卒業までに登校する日数は４ヵ月程だろうか。早いものだ。

私は子供達にも先生方にも、今自分に何ができるかを考えて、そして主体者意識を持って活動するようお願いしている。そうしなければ、貴重な時間が惰性で流れ、充実感も達成感も味わえないからだ。充実した時間を味わうためには、主体性と協働性が重要だ。修学旅行や見学旅行があっという間に終わってしまうのは、子供達に主体性があるからだ。６年生には特に主体性と協働性をもって思い出をつくり、仲間をつくり、卒業までの時間を過ごしてもらいたい。

「私の愛語録」

私は青春時代に楽な方に流され、努力を怠った時期があり、それを取り戻すために、また頑張っている人に追いつくために、何かに取り組んでいないと不安な気持ちになります。人と同じことをしていては、成長はあまり期待できませんので、常に新しいことに挑戦するようにしてきました。ですから、失敗は当たり前の日常でしたね。そんな時に自分を励ましてくれる言葉がこれです。

失敗とは、より賢く
再挑戦するためのよい機会である。
まじめな失敗は、
なんら恥ではない。
失敗を恐れる心の中にこそ、
恥辱は住む。
ヘンリー・フォードの言葉

失敗を恐れ、恥や外聞を気にして、苦手なことから逃げて、挑戦せずにいるのは仕事人としてはどうでしょうか？これまでの成功体験にしがみ付き、自分を変えずに時代遅れの自分を通していく姿には、哀しささえ感じます。今後、社会の変化は加速度を増すことが考えられます。私たちのように人と接する仕事、特に教師という仕事は、社会の変化に乗って新しい知識や技能を更新して行かないと、プロフェッショナルとしての質を問われることになりかねません。私はそうしてきたにも拘らず、またまた習得しなければならない知識・技能がたくさんあります。常に勉強ということですね。そう言えば、私が教職に就いた頃、パソコンは５０万円前後だったと思います。しかし、今では公費で一人一人にパソコンが準備され、価格も以前と比較すると安くなっています。これは何を意味しているのか？簡単ですよね、「私はパソコンは苦手だから…」なんてことは言っていられない、使わなければ仕事ができないということです。今後、更に改革は進むでしょう。働き方改革が進められる今、「だって仕事がさばけないから…」、「時間の使い方が下手だから…」等とは言っていられないのです。未来社会で活躍する子供達の姿を描きながら、新しい知識や技能を学んでいきたいと思います。

シリーズ「自分を語る」#132

荒尾第一小学校に、教頭として着任したのは平成２８年４月１日でした。ここから先の話は私自身がなりリアルな記憶を基に書いていきますので、進みが遅いかもしれません。

４月１日に着任しても、子供達は通ってきません。春休みですから、部活動の子供達がチラホラ来る程度です。子供達が来ない小学校というのは寂しいものです。そういう意味で、１日から新年度の始業式が始まるまでは、私自身、極度のストレスを感じていました。２日（土）と３日（日）、私は自宅で何をするでもなくボ～ッと過ごしました。心の中には、実は「学校に行きたくない」的な感情が首をもたげていました。

４月４日（月）、私の存在は先生方にとっては既に教頭先生でした。「教頭先生、年休頂きま～す。」「この書類、チェックお願いします～。」　そのような中、私を鍛えるために校長先生から「教頭先生、ちょっと…」と言って、校長室から手招きされることもありました。私が校長室に入っていく時のBGMは「ドナドナ」でしたね。

そして４月４日は、職員の会議が午前も午後も入っていたので、目が回るような忙しさでした。と言っても、私はついて行くのがやっとでしたが…。おまけに夜はＰＴＡ新旧役員引継ぎがあり、午後７時から開始され、お話を聞いている最中私の心の中は「無」でしたね。何もかもチンプンカンプンでした。何か、「置いて行かれる」という感覚で、まだまだ仲間として認めてもらえないんだという寂しさを感じていました。しかし、それが覆されることが後に起こります。その話はもう少し先で行います。

５日、またまた会議…。この時期の学校は新年度のスタートに向けて慌ただしい時期です。私は担任の先生方の慌ただしさを見つめながら、手伝う余裕の無い自分に嫌気が差す始末で、少々気持ちが荒んだ時期でした。

８日（金）、いよいよ子供達との出会いです。平成２８年度始業式、流れは解っていたつもりでしたが教頭先生として立ち居ふるまうことは、結構ストレスに晒されるものです。簡単な動作、言葉なのに、ぎこちなさが常に付きまといました。その日の午後は入学式の準備でした。荒尾第一小学校はコミュニティ・スクールですので、多くの地域の皆様をご来賓としてお招きします。全く知らない人から「教頭先生！」と声を掛けられ、十分に応対することもできずに、準備だけは進んでいきます。先生方の組織的な動きに圧倒されながら、私は特に何もしなくても、準備されていくということに、申し訳なさが自分を押し潰しそうでした。兎に角疲れた１週間でした。「やっていけるのか…？」と、そこには自問自答する自分がいました。

相変わらず、「学校に行きたくない」的な感情のまま土日を過ごし、あっという間に月曜日です。入学式本番なのです。儀式的な行事においては、意外と教頭先生の活動場面が多いんです。開閉式のあいさつ、来賓紹介、接待…。私もどのようになったのか、もう覚えていません。しかも、この１週間後には授業参観（土曜日実施）があり、そのお知らせのプリント作成も私の担当でしたが、後手に回っているので慌てて対応です。心の余裕なんてありませんでした。職員の出張など外出の管理も教頭が行いますので、私、眠る暇もないような毎日でした。こうして仕事を覚えていくのでしょう。

入学式を終え、１２日からやっと通常の学校生活に戻りつつありました。（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）